留学報告書
～アメリカで得た学び～

マドンナ大学　中期
外国語学部（中期）

私はアメリカ合衆国ミシガン州にあるマドンナ大学に、3カ月弱中期公費交換留学生として留学させていただきました。この留学は、語学力の向上だけでなく、異文化理解や自立心を深める貴重な経験となりました。ここでは、留学を通して得た学びや経験を報告します。

まず初めに、私にとって海外の地に立つということが初めての経験で、とてもわくわくした気持ちと同時に不安も抱えていました。当時、アメリカでのトラブルがビザに関与し、出発の準備が遅れるというイレギュラーな出来事が起こりました。海外経験が初めての私にとって、このようなとても大きな不安を抱えながらの出発を迎えたことを鮮明に覚えています。

この留学で学んだこととして最も大きいのは、「完璧さ」よりも「伝えようとする姿勢」が重要だということです。日本の英語の授業では、文法や発音の正確さを意識するあまり、間違えることを恥ずかしがって発言を控えてしまう場面が多くありました。しかし、アメリカの授業では、積極性を大事にしており、ほぼ全員の生徒が先生とのコミュニケーションを自ら取っていました。そこで、みんなが英語を学びに来ていることを実感し、自分自身も授業内での発言や質問を増やすことを努力しました。授業内ではディスカッションやグループワークが多くあり、意見を言った後、彼らは必ず「理由」を求めてきました。日本の「察する」文化とは異なり、海外では、言葉に出さなければ意見がないとみなされてしまいます。私にとって、意見を言うことは簡単でしたが、理由を言語化することにとても苦労しました。しかし、考えがまとまっていなくとも自分の考えを伝えることが大切であり、先生や生徒はこれを理解してくれました。考えを即座にまとめることは難しく、悔しさを感じる場面が多くありましたが、回数を重ねるうちに、伝えたい内容を簡単な英語で表現する力が身についていきました。

また、授業外でのコミュニケーションを通して、実践的な英語力の重要性も学びました。寮生活やキャンパス内での会話では、教科書で学んだ表現よりも、日常的で自然な英語が多く使われていました。天気の話をしたり、最近流行っているものを話題にしたりしました。その会話では、自分が知らないような表現を相手は使うことがあり、私は「もう一回言って」と正直に言いました。これは恥ずかしいことではないと知り、相手も気楽に教えてくれました。食堂では注文方式であったため英語を話すことが必須でした。最初は聞き取れないことも多くありましたが、分からない場合には聞き返したり、自分の言葉で確認したりすることで、少しずつ理解できるようになりました。この経験から、語学力の向上には、間違いを恐れずに使い続けることが何より大切だと実感しました。

次に、留学を通して、文化の違いが人々の考え方や行動に大きく影響していることに気づきました。アメリカでは、個人の意見や価値観が強く尊重されており、自分の考えをはっきりと述べる姿勢が当たり前とされている印象を受けました。授業中には、学生が教授の意見に対して、質問や反論をする場面が多く見られました。日本では、先生の意見に反論することは失礼だと感じる場合もありますが、アメリカではそれが積極的な学習態度として評価されました。この違いから、学ぶことに対する姿勢が大きく異なることに気づきました。

また、日本とアメリカの違いとして特に印象に残っているのは、生活面における自立の意識です。アメリカの学生は、授業の履修計画、課題の管理、アルバイトや課外活動の予定など、すべて自分で考え行動していました。期限に遅れた場合は自己責任となり、誰かが注意してくれることはほとんどありませんでした。分からないことをそのままにしておけば、だれも手を差し伸べてはくれません。しかし、聞けばサポートしてくれるというスタイルがあると気づきました。その一方で、日本では周囲が互いに助けあう文化が根付いており、その安心感を改めて感じました。また、異なる価値観に触れたことで、日本とアメリカのスタイルの違いを再認識する機会になりました。

さらに、国際的な環境で学ぶことにより、多様性への理解が深まりました。留学先では、さまざまな国籍や文化的背景を持つ学生と交流する機会がありました。食、服、宗教、音楽など、様々な文化を知る良い機会でした。私自身が異文化に興味があるように、他の生徒も日本や他国に興味を持っていました。お互い文化や考え方が異なっていても、決して否定的な意見を交えることはしません。英語を通じて意見を共有し、互いを理解しようとする姿勢に大きな刺激を受けました。同時に、自分が日本人としてどのような価値観を持っているのか、日本はどのような国なのかを客観的に見つめ直すことができました。

この三か月間の留学を通して、私は語学力の向上だけでなく、積極性、自立心、そして異文化を受け入れる柔軟な考え方を身につけることができました。ミシガン州での大学生活は、今後の学業や将来の進路を考えるうえで貴重な経験となりました。この留学で得た学びを、日本での学生生活や将来の目標に活かしていきたいと考えています。留学経験を今後日本で活かすために、まず大学の授業やゼミにおいて、これまで以上に積極的に発言する姿勢を大切にしたいと考えています。アメリカの大学で、間違いを恐れずに意見を述べることが学びを深めることにつながると実感しました。この経験を活かし、日本でも自分の考えを言葉にして伝える力を伸ばしていきたいです。また、日々の学習計画や課題管理を意識し、自己管理の徹底を心がけていきたいです。さらに、異文化の中で培った多様な価値観を尊重する姿勢を持ち続け、将来は英語を通して人と人をつなぐ存在になりたいと考えています。そのためにも、日本での学生生活の中で積極的に挑戦を続け、留学で得た学びを実践しながら成長していきたいです。